

# Cảm ơn Việt Nam, Come on to Vietnam

## ～変わりゆくベトナムの街と下水道普及への展望～

わ こう たか とし  
若 公 崇 敏\*

### 1. はじめに

ベトナムから帰国して半年。米朝首脳会談に関する報道に映るハノイの街並みや活気ある人々の往来を久々に見て、改めてベトナムの発展を実感する。

折しも日本では平成の30年間に幕を閉じつつあるが、ベトナム南北統一から約40年余り、ドイモイ（刷新）と呼ばれる市場経済の導入や社会主義路線見直しなどの大政策転換からわずか30年。首都ハノイが歴史的な米朝首脳会談の舞台に選ばれるまでに発展することを予想できた人はそう多くないだろう。

JICA専門家として3年間、ベトナム建設省の下水道政策アドバイザーとして勤務する機会を頂き、仕事や生活を通じて感じたことを振り返りたい。

### 2. インフラ整備（特に下水道）の現状

ベトナムでは二輪車利用者割合が高く、渋滞問題は他のアジア諸都市より深刻ではない印象があるが、それでも所得向上に伴う車両台数の増加により交通量は増加の一途を辿っており、道路整備や都市鉄道整備は最優先の課題である。生活インフラについては、都市部（全人口9,300万人の約36%）の電力、上水道は概ね整備済みである一方、下水道普及率は2割に満たず、大半の生活排水は未処理のまま水路や暗渠を通じて都市内河川に排出されている（写真-1）。

ベトナムの下水道整備は、1992年のODA再開以降、世界銀行と日本政府を中心とする海外ドナーの資金援助によって整備が進められてきた。すでに大都市を中心に40か所の下水処理場が整備され、現



写真-1 黒く淀んだハノイ市内の都市河川

在計画・建設中のものも加えると、10年以内には100か所以上の下水処理場が整備される見通しであり、東南アジアでは最も下水道整備が急激に進んでいる国と言えよう。

### 3. 下水道政策アドバイザーの仕事って？

「若公は3年間何をしたの？」と問われると、なかなか簡潔に説明するのは難しい。私は、国土交通省から派遣された3代目の専門家として、ベトナム建設省の上下水道や廃棄物などの都市技術インフラを所管する部局（職員約60人）に配属され、法制度や計画策定、技術や人材育成に関する総合的なアドバイスを行っていった。と書くと聞こえはよいが、実際には、ベトナムの役所の方々是一部の方を除いてそれほど仕事熱心という感じでもなく、「あなたは専門家なんだから、私たちの課題を調べて色々提案して」というのが基本スタンス。例えば「ベトナムには下水道法がないから内容を提案してほしい」という依頼を受けたが、何のために必要かから考えてほしいという丸投げであった。現行の課題や諸外国の法制度との比較などを踏まえた提言レポートを提出したものの、「下水道法は水道法が成立した後

\* 埼玉県 下水道局 参事兼下水道事業課長（元ベトナム建設省下水道政策アドバイザー 2015年6月～2018年6月）

で検討します」との一言で棚晒しになるなど、政策提言を形にするのはなかなか容易ではない。相手を選べないのが技術協力の難しいところであるが、あちらも私を選べるわけではないので、そこはお互い様。仕事がうまくいかないからと言って足が遠のいてしまうとますますうまくいかないの、用事がなくてもお茶を飲んだり酒を飲んだり、サッカーチームに所属したりと、とにかく距離を縮めることが重要だと実感した。また言語の壁は思いのほか高く、英語はあまり通じない職場だったが、ベトナム語が上達した3年目には非常に意思疎通がうまくできるようになった。ただ他のドナーの現地語ペラペラの専門家が活躍する姿を見て、自分の限界を感じることも多々あった。



写真-2 建設省で一緒に過ごした局長、課長らカウンターパート

政策アドバイスだけだと早晚煮詰まってしまうが、幸い日本から多くの自治体や民間企業、大学関係者が、下水道分野でのベトナムとの関係構築のために来訪する機会があった。こうした活動に同行し、現地人脈を広げるとともに、ベトナム側の適切な相手を紹介し、時には遠慮がちな日本からの出張者に代わって厚かましくベトナム側に意見を主張することにより、少なからず下水道分野の様々な日越協力関係の量的拡大・質的向上に貢献できたのではないかと思っている。

#### 4. この10年がベトナム下水道普及の岐路

持続可能な開発目標（SDGs）の1つに「未処理の汚水を2030年までに半減」というターゲットが設定され、日本の1960年代以降のように、下水道整備が急速に進展することが期待される。一方、日本との大きな相違点は、すでにベトナム（だけでな

く東南アジア諸国全般）の大部分では水洗トイレが普及しており、かつての日本で下水道普及の推進力となった「下水道整備＝トイレの水洗化」という恩恵を個々の住民が享受できないことから、下水道普及に対する世間の関心は、それほど高くない。しかし希望もある。日本の援助による「ホーチミン水環境改善事業」により、市内の運河の水質、周辺環境は劇的に改善し、ホーチミンの街並みは大きな変貌を遂げている。首都ハノイも日本の1990年以降の「ハノイ水環境改善事業」により浸水リスクが大きく低減された。現在、日本企業も受注者として活躍している「ハノイ市エンサ下水道整備事業」が完成する5年後には、ハノイ市内の真っ黒なトリーク川も、その姿を大きく変えるに違いない。その時、ハノイ市民や他都市からの訪問者は何を思うのか？自分の住む街もこのような綺麗な川が流れる街であって欲しいと願うのか？経済成長に伴い、豊かさを手に入れ始めているベトナム。中進国入りも視野に入り、ODAによる資金調達が困難になってくる中で、いったいどのような街づくりを目指すのか？日本人専門家の立場としては、日本のように下水道整備への一定の投資を確保し、美しい街づくりを目指してほしいと願ってやまないが、こればかりは彼らの価値観の問題であり、今後の推移を見守りたい。

#### 5. おわりに

「ありがとう」は、ベトナム語では「Cảm ơn（カムオン）」と言う。英語のCome onと似ているが、ベトナム語の多くは漢字由来であり、この言葉も「感恩」と書く。ベトナム滞在中最もよく使い、最も好きな言葉だ。在任中、日々多くの驚きとエネルギーをもらったベトナムに改めて感謝するとともに、読者の皆様にも、魅力あるベトナムに是非足を運んでほしい、という思いをタイトルに込めた。熱気と活気に満ちており、安全、美食、親日の三拍子そろった魅力的な国、ベトナム。読者のみなさまにも是非一度訪問しその熱気を体感して頂きたい。

※本稿の内容はすべて筆者自身の見解に基づくものであり、所属組織等の意見を代表するものではない。